

20. CD3 抗体固層化法養子免疫療法における抗腫瘍性多糖体の有用性に関する検討

(産婦人科学教室)

- 星野泰三, 鈴木康伸, 武市 信,
牧野秀紀, 足立 匡, 柳下正人
高山雅臣

〔目的〕養子免疫療法における抗腫瘍多糖体 Sizofiran の有用性をNK活性, LAK活性,

白血球膜抗原を用いて検討したところ興味ある結果を得たので報告する。

〔方法〕卵巣癌患者 6例の末梢血単核球を非固層化フラスコ中A群 (IL-2単独添加) とCD3 抗体固層化フラスコ中でB群 (IL-2単独添加) とC群

(IL-2+Sizofiran 併用添加) に分け14日間培養した。培養前及びに培養 3日後, 7日後と14日後に細胞数, NK活性, LAK活性, 白血球膜抗原の変動を観察した。

〔結果〕1) リンパ球数は培養 3日, 7日後と14日後でC群はB群に比べ1.5~2.5 倍となり

Sizofiran によるリンパ球数の増加効果が認められた。A群は, B, C群に比べ増加は軽度であった。2) 白血球膜抗原CD25 (IL-2 Receptor), NK活性とLAK活性が培養 3日, 7日後と14日後でC群はB群に比べ有意な上昇を認めSizofiran によるIL-2Receptorの増加作用が認められ, それに起因するNK活性, LAK活性の増強効果が示唆された。A群は, B, C群に比べ増加は軽度であった。

〔結論〕Sizofiran の養子免疫療法における有用性が示唆された。現在, 臨床応用中であり有効性が期待される。

21 子宮内膜癌に対するモノクローナル抗体の作製とその解析

(産科婦人科学教室)

- 弓立 環, 井坂恵一, 岡部一裕,
高田 淳, 飯塚聖子, 興石 真,
舟山 仁, 小川俊隆, 山邊志都子,
高山雅臣

子宮内膜癌(子宮体癌)は近年増加傾向にあり, その発生はホルモン依存性であるといわれている。また, 臨床的に有用な腫瘍マーカーがないため診断や治療判定に苦慮することも少なくない。そこで我々は手術材料を使用して子宮内膜癌細胞株を樹立し, 子宮内膜癌に対して特異的なモノクローナル抗体を作製した。樹立した細胞株は中分化型子宮内膜癌でありヌードマウスへの造腫瘍性を認めた。Kohler and Milsteinの方法により抗体を作製し, cell ELISA法により3種のモノクローナル抗体を得て免疫組織化学染色ABC法により特異性の高い3H2抗体を得た。この抗体は高, 中分化型子宮内膜癌に染まるが, 低分化型子宮内膜癌, 正常子宮内膜, その他の悪性腫瘍や正常組織には染色性はほとんど認められなかった。また, 認識する抗原は36kdの蛋白である可能性が示唆された。これからの結果により, 本抗体は正常子宮内膜から内膜癌に至る過程や子宮内膜癌での分化および増殖に関与している原因の解析に有用であると思われる。